

# 環境科学研究科のみなさまへ

川手 昭二

昨年三月みなさまから暖かいお別れの言葉の数々をいただいてから、早くも一年と三ヶ月が立ちました。

そして今年の四月から、芝浦工業大学システム工学部環境システム学科で教える事になりました。

筑波大学では社会工学系に所属して、同僚の先生達と新しい学問体系の構築に打ち込みましたが、ここでも新しい名前にふさわしい体系を模索し、研究し、教えなくてはなりません。

環境システムとゆう名は、環境科学とどこが違うのか、筑波大学では環境の名に対応した専門の先生を必要に感じて揃える事が可能ですが、ここでは八名の先生で対応しなくてはなりません、そこで環境科学研究科の計画分野に近い内容に絞って教える事になりました。

今学生は一年生だけです。彼らのうちの何人かは地球規模の環境問題も勉強できると思って入学した人もおります。そのような人にはよく勉強して筑波大学の環境科学へいく事も好いのではないかとサゼストしたりしております。

ともあれ新入生達には環境の善し悪しを指標で判断するだけではなく、自分の肌で考える事の必要性も理解させたいと考えております。さしあたって環境ウォッチング同好会を結成いたしました。80人中15人が参加してきました。

まず手始めに盆栽村の探査から着手しました。盆栽村は大正の大震災のあと東京千駄木にいた盆栽屋さんたちが大挙移転してつくった住宅地です。今でも創生期の面影を偲ぶことのできる見事な環境を備えており、学生達に感銘を与えました。

盆栽村は見沼田圃に沿った樹林地の中につくられたもので、植物学の牧野博士が探査をした事でもしられる野生植物の宝庫でもあったところですが。この一体が近年のスプロールで荒らされ始めております。スプロールは市街化の一形態で評判が好くないのですが、それならほめられる市街化はどのようにしたら好いのかについては、じつは何も分かっておらないのです。

東西に平行して流れる見沼代用水流域は、これから市街化の荒波にさらされようとしております。3パーミリにみたぬ勾配の湿田に建設残土のような汚い土が捨てられ埋め立てられ、悪臭を放つ溜まり水のような水路がつくられています。

もしこの土地を好い市街地に作り替えようとするのなら、芝川、綾瀬川流域の環境システムを考えなくてはならないのです。

環境ウォッチング同好会はいずれとてもむずかしいテーマと取り組まなくてはならなくなりそうです。そのうえ今大宮は都市型工業が目白押しに立地しつつあり、工業環境も一挙に変化する様相を観察する事ができます。私の環境システム研究の材料は身の回りに沢山あります。とてもおもしろい環境に来たものと思っております。